

ア 盛岡構想区域

(盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町)

(基礎データ)

人 口	479,842 人	医師の総数	1,510 人
基準病床数 A	4,917 床	看護師の総数	4,579 人
既存病床数 B	6,018 床	薬剤師数	213 人
差引 B-A	1,101	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の総数	618 人
総病院数	39	10万人当たりの医師の総数	315
診療所施設数	377	10万人当たりの看護師の総数	954
在宅療養支援診療所	44	10万人当たりの理学療法士等の総数	129
在宅療養支援病院	3	介護付き入所系施設施設数	110
訪問診療施設数	58	介護付き入所系施設設定員合計	5,025 人
訪問診療実施件数	2,071	1人当たり医療費	328,315 円
在宅看取り施設数	10	1人当たり介護費	292,702 円
在宅看取り実施件数	22		

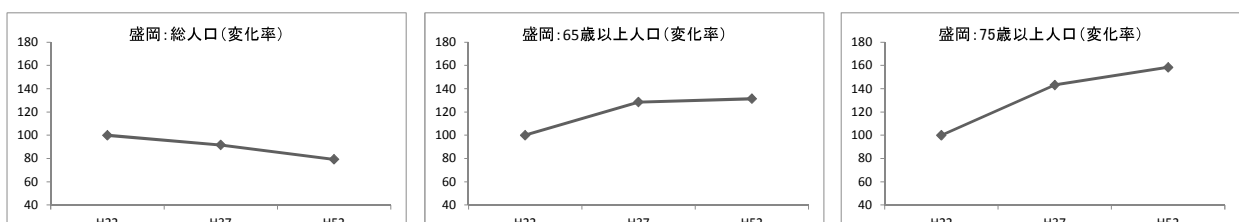
(医療提供体制の概況)

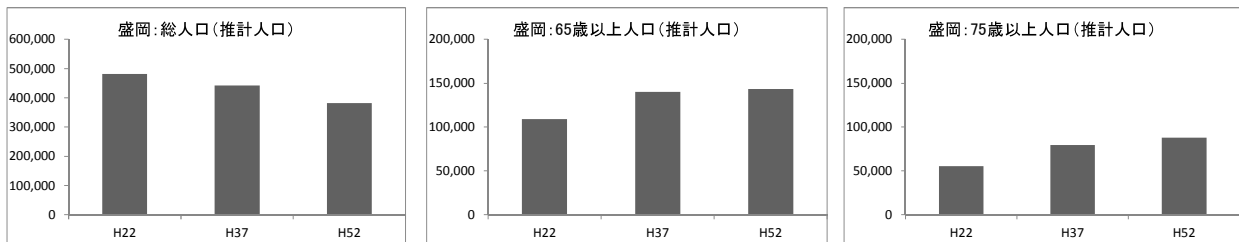
- 盛岡構想区域では、県全域のセンター機能を担う岩手医科大学附属病院や県立中央病院が立地するほか、病床機能報告の対象となる病床の約 45%が集中しています。

(人口の将来動向)

- 盛岡構想区域の総人口は、平成 22 年の 481,699 人が平成 37 年には 441,523 人に減少し（平成 22 年比－8.3%）、平成 52 年には 382,024 人に減少すると予測されています（平成 22 年比－20.7%）。
- 盛岡構想区域の 65 歳以上人口は、平成 22 年の 109,149 人が平成 37 年には 140,277 人に増加し（平成 22 年比＋28.5%）、平成 52 年には 143,452 人に増加すると予測されています（平成 22 年比＋31.4%）。
- 盛岡構想区域の 75 歳以上人口は、平成 22 年の 55,464 人が平成 37 年には 79,399 人に増加し（平成 22 年比＋43.2%）、平成 52 年には 87,853 人に増加すると予測されています（平成 22 年比＋58.4%）。

(図表 18) 盛岡構想区域の人口推計





資料：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成 25 年 3 月推計）

（入院医療の現状）

- 入院医療の完結率は全体で 98.2%となっており、病床機能区分ごとに見ても他の構想区域と比較して高い水準にあるほか、隣接する岩手中部構想区域、宮古構想区域、二戸構想区域からの患者の流入が多くみられます。

（図表 19） 盛岡構想区域に住所を有する患者の受療動向 [単位：上段…人／日、下段…%]

患者住所地	医療機関所在地										合計
	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	県外	
盛岡	7,054.7	55.8	*	18.9	*	12.0	*	*	12.1	30.4	7,183.9
	98.2%	0.8%	-	0.3%	-	0.2%	-	-	0.2%	0.4%	100.0%

資料：厚生労働省「必要病床数等推計ツール」平成 25 年の医療需要

（図表 20） 盛岡構想区域に所在する医療機関における患者の受療動向 [単位：上段…人／日、下段…%]

医療機関所在地	患者住所地										合計
	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	県外	
盛岡	7,054.7	361.6	84.2	62.9	85.9	88.6	204.7	30.6	226.2	137.1	8,336.6
	84.6%	4.3%	1.0%	0.8%	1.0%	1.1%	2.5%	0.4%	2.7%	1.6%	100.0%

資料：厚生労働省「必要病床数等推計ツール」平成 25 年の医療需要

（図表 21） 盛岡構想区域に住所を有する患者の受療動向の推計（機能区分ごと）

[単位：上段…人／日]

		盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	青森	宮城
盛岡	高度急性期	290.9	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—
		100.0%	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—
	急性期	955.8	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		100.0%	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	回復期	1,303.4	10.2	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		99.2%	0.8%	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	慢性期B	895.3	29.8	*	14.7	*	*	*	0.0	*	*	0.0
		95.3%	3.2%	*	1.6%	*	*	*	0.0%	*	*	0.0%
	慢性期B1	895.3	29.8	*	14.7	*	*	*	0.0	*	*	0.0
		95.3%	3.2%	*	1.6%	*	*	*	0.0%	*	*	0.0%

資料：厚生労働省「必要病床数等推計ツール」平成 25 年の医療需要に基づく平成 37 年における推計

注 1) 「*」は 0.1 以上 10 未満（非公表）を示しており、完結率（%）は「*」を考慮していない。

注 2) 慢性期 B 1 に太枠・灰色の表示がある場合、隣接する構想区域との連携体制を示す合算値が表示されている。

（病床機能報告と必要病床数の比較）

- 病床機能報告による病床機能ごとの病床数と平成 37 年の必要病床数を比較すると、高度急性期、急性期及び慢性期が過剰となり、回復期が不足すると見込まれます。

(図表 22-1) 盛岡構想区域の H26 年度病床機能報告と H37 年度必要病床数の比較 [単位：床]

構想区域	機能区分	H26 病床機能報告 「許可病床」		H37 必要病床数 C	差引 B－C
		H26時点 A	H32時点 B		
盛岡	高度急性期	1,773	1,773	547	1,226
	急性期	1,821	1,683	1,553	130
	回復期	870	900	1,861	▲ 961
	慢性期	1,717	1,780	1,224	556
	無回答	39	84	—	84
	合計	6,220	6,220	5,185	1,035

資料：厚生労働省「必要病床数等推計ツール」、平成 26 年度病床機能報告（許可病床に係る報告値）

注 1） この他、1 病院及び 10 有床診療所について集計不能等となっている。

(図表 22-2) 盛岡構想区域の H25・H37 年における慢性期・在宅医療等の医療需要の比較
[単位：人／日]

構想区域	医療機能	平成25年の 医療需要	平成37年の 医療需要	差引
盛岡	慢性期	1,191.8	1,125.8	▲ 66.0
	在宅医療等	4,187.9	5,591.4	1,403.5
	合計	5,379.7	6,717.2	1,337.5

資料：厚生労働省「必要病床数等推計ツール」

注 1） 在宅医療等の需要の比較については、平成 25 年度の医療機関所在地ベースの需要と平成 37 年の患者所在地ベースを比較したもので、前提が異なることから、参考値である。また、平成 25 年、平成 37 年ともに療養病床への入院患者のうち医療区分 1 の 70%を含めた数値である。

(課題)

- 過剰となることが予測される高度急性期、急性期及び慢性期の病床を、不足することが予測される回復期の病床に転換していくことやこれらの医療資源を在宅医療等の体制整備に活用していくこと等を検討する必要があります。
- 慢性期については、主に岩手中部構想区域、二戸構想区域、宮古構想区域等からの患者の流入が見られることを踏まえ、他の構想区域との適切な連携体制を引き続き確保していく必要があります。
- 平成 37 年にかけて 75 歳以上人口が大きく増加し、更に平成 52 年にかけても増加が続くと予測されるため、住民の高齢化に伴って増加する疾病への対応が必要と考えられます。
- 三次保健医療圏（全県）で対応する高度急性期をはじめ全県の医療機能を支える中核的な役割が求められます。

【参考】

(図表 22-3) 盛岡構想区域の H26 年度病床機能報告（稼働病床に基づく報告値）と H37 年度必要病床数の比較 [単位：床]

構想区域	機能区分	H26 病床機能報告 「稼働病床」		H37 必要病床数 ウ	差引 イーウ
		H26時点 ア	H32時点 イ		
盛岡	高度急性期	1,751	1,751	547	1,204
	急性期	1,748	1,618	1,553	65
	回復期	839	869	1,861	▲ 992
	慢性期	1,700	1,755	1,224	531
	無回答	0	45	—	45
	小計	6,038	6,038	5,185	853